

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和 7 年度瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
開催日時	令和 7 年 1 2 月 2 4 日（水） 1 0 時 0 0 分～1 1 時 0 0 分
開催場所	高松市役所 1 3 階 大会議室
議 題	（１）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績（令和 6 年度実施分） （２）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員からの意見と回答 （３）今後のスケジュール （４）その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員(16名) オブザーバー	長山会長、佐藤副会長、上枝委員、上野委員、笠井委員、香西委員、土居委員、永森委員、藤本委員、三澤委員、森田委員、英委員、加藤委員、竹上委員、宮内委員、小山委員、中村オブザーバー
傍 聴 者	3 人 （定員 2 0 人）
報道機関	1 人
担当課及び 連絡先	政策課（087－839－2135）

会議経過及び会議結果
<p>会議の概要は、次のとおり</p> <p>議題（１）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績（令和 6 年度実施分）</p> <p>瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績について、事務局から説明し、次のとおり意見があった。</p> <p>【事務局から説明（資料 3～18 ページ）】</p> <p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に事業の評価が高いことは素晴らしい。 ・K P I の達成度が高いにもかかわらず評価が低い事業がある理由は何か。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合評価は、各市町全体の評価を踏まえたもの。K P I の目標値を達成した場合でも、いくつかの市町の実績や評価が低いと総合評価が下がる。

議題（２）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員からの意見と回答

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員からの意見と回答について、事務局から説明し、次のとおり意見があった。

【事務局から説明（資料 19～20 ページ）】

（会長）

- ・ 10 年前の出生数は 100 万人だったが、令和 7 年の出生数は 66 万人台と 3 分の 1 まで減少している。学校などの統廃合を考えなくてはいけないだろう。全国平均で 3 分の 1 ということは、地方は更に厳しい。

（委員）

- ・ 関西や香川の大学での交流会が活発だと感じており、大学 O B は現役学生に対して応援する姿勢を持っている。交流会等の組織からメンバーを集めて応援団を作るなど、Uターンを促進するための仕組みづくりをしてはどうか。

（事務局）

- ・ 交流会等の組織を絡めた取組については検討してまいりたい。
- ・ 県内高校卒業者のうち、大学進学者の 8 割が県外進学、そのうち、4 割が関西圏に集中しているため、今年度から、関西圏の学生を対象とした取組を進めている。
- ・ 具体的には、関西の私立大学、国立大学の近くに、学生向けのキャリア支援カフェがあり、企業や行政が学生にアプローチできる場となっているため、市内出身、県内出身、四国出身の学生に地元の魅力などを P R することで、Uターン促進に取り組んでいる。今後、圏域全体で取り組めるよう、検討してまいりたい。

（委員）

- ・ 本ビジョンの令和 10 年の人口目標を達成することは困難だと思うので、人口減少によって生じる問題の解決手法に関する K P I に再設定した方が良いのではないかと。
- ・ 学生に対するアプローチについて、大学生になるよりもっと早い段階で発信できないか。高松市では、中学校のカリキュラムの中で「企業体験」があったと思うので、「なぜ、香川から出ずに働いているのか」など、生の声を届けることが有効ではないかと。

（事務局）

- ・ 予想を上回るスピードで人口減少が進行しているため、目標の見直しを検討する時期が来ているのではないかと考えている。出生数をすぐ増加させることは困難であるため、二地域居住者や関係人口の創出等に向けて取り組み、

社会増、人口の増加につなげてまいりたい。

- ・ 学生に対するアプローチについては、幼少期からのシビックプライドの醸成が必要である。本市では、教育委員会と市長部局が連携し、企業体験等ができるような場を持てないか、ということを検討しているところ。

(会長)

- ・ 四年制大学進学者の県外流出は多いが、専門学校と短期大学への進学者は地元に残る割合が多いというデータがある。地元に残った人が将来を見通せるようなサポートも重要。

(委員)

- ・ 地方より首都圏の方が賃金格差が少ないことから、男性に比べ、女性のほうが、県外に流出した後に帰ってこないという話もある。池田香川県知事が女性の応援団を結成したとの話を聞いたので、参考にしていきたい。

(事務局)

- ・ 本市では、来年度のまちづくりプランの重点テーマの一つとして、「若者・女性にも選ばれるまちづくり」を掲げている。「女性の働き方」についての多様な取組を、圏域全体に向けて発信できるよう努めてまいりたい。

(委員)

- ・ 香川県は子宮頸がんワクチンの接種率がワースト4位と低い状況であることを受け、高松市と医師会が連携し、1月にみんなの病院で集団接種を実施する予定。接種率を上げることで、若い世代を守ることができるため、圏域での実施について検討していきたい。

(事務局)

- ・ 集団接種については、高松市医師会の皆様にも御尽力をいただいて実現することができ、本市としても大変ありがたい。圏域で実施可能なものか、検討してまいりたい。

(委員)

- ・ 「未婚化・晩婚化・晩産化等の進展」について、婚活での出会いが一般的である社会になれば、未婚化等に歯止めがかかるのではないか。

(事務局)

- ・ 「男女の出会い」や「若者同士の出会い」、「企業と学生の出会い」といった意味での「出会いの場」を創出できないか検討している。それがひいては未婚化等の解消につながっていけば良いと考える。

議題（３）今後のスケジュール

- ・今後のスケジュールについて、事務局から説明。

議題（４）その他

（会長）

- ・オブザーバーから意見等があれば発言願いたい。

（オブザーバー）

- ・連携中枢都市圏の事業は、各市町との連携が必要な取組であるため、引き続きコミュニケーションを大切にして取り組んでいただきたい。
- ・香川県の動きとして、外資系高級ホテルがサンポートと直島にできる。これによって、圏域の観光の在り方も変わってくると想定され、今後の連携やアプローチ方法を検討していく必要がある。
- ・短期間で委員が交代するケースもあることから、資料については、単年度のみの評価を掲載するのではなく、経年で追える内容が良いのではないか。
- ・総合評価が「Ｃ」の事業は、各市町の評価も低調であると見受けられる。変化する社会のニーズに対応するための新規事業の創出と併せて、評価結果を踏まえた事業の見直しを行っても良いのではないか。

以上